

## 支部だより

### 明るく、楽しく、若い同窓会 —第8回関西支部の集い—

塩川裕爾(M昭39)

毎年1回大阪で開く関西支部の集いが、亀山郁夫学長(R昭47)を迎えて5月11日、ラマダホテルで開かれました。

近畿の2府4県(大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山)在住者で、東京外語会名簿に登録されている人は約800人。転勤なども多いので数は一定していません。これらの方々のうち様々な理由で案内状の発送は不要という人もだぶおられますので、関西支部は今回、700名ほどに案内状を発送しました。同封した出欠の返信ハガキの回収率は37%。あとの方は返信すら頂けませんでした。残念ながらこれが実状です。そこから幹事団の懸命な連絡作戦が始まります。その結果、登録されている方々の約1割にあたる76人が出席して下さいました。出席者のうち、女性、初参加の人、1998(平成10)年以降の卒業生の比率がそれぞれ2割前後。この割合は年々増えています。現在、在校生の男女比率が38:62だそうですから、今後若い女性の参加が増えることを幹事団は期待しています。東京、名古屋方面から参加した「応援団」が今年は6人、関西在住者と旧交を温めました。

さて、中村博東京外語会前理事長(E昭29)は、この関西支部同窓会が再開した7年前から毎年出席していただきましたが、6月に役員任期満了で退任されました。来賓としての挨拶の中で中村氏は、同窓会の会費、寄付金集め、大学支援のあり方について、一橋、慶応など他大学や昔留学されたハーバード大学大学院の例と比較しながら、その展望を語りました。

次に来賓として挨拶された池田修旧大阪外語大「咲耶会」会長は元大阪外語大学長。大阪外語大は昨年10月、大阪大学と統合し、その外国語学部となりました。その同窓会をどうい

形で続けるか、一々大学本部にお伺いを立てる必要がある、と内情についても話されました。

名簿作りに至っては個人情報保護を理由に、大学が新入生、卒業生の資料を同窓会に対してさえ出さないため、個々に当たるしかない、ということです。

続いて『カラマーゾフの兄弟』新訳の大ヒット以来、新聞、テレビ、ラジオで引っ張りだこの亀山学長が新任の挨拶を兼ねて「東京外国語大学の将来を構想する」と題して講演、世界諸地域の言語・文化・社会に関する教育研究の拠点大学化や日本語教育の世界的な拠点化を最重要にし、4大学連合や他の国公私立大学との連携を強めて行く、と熱っぽく語りました。「世界知の輝ける殿堂」を築くための「action plan 2007」を策定、先頭に立ってプランの実現に拍車をかける一方、文科省や財務省の役人と涉り合っている騎士のような姿に心を揺さぶられた人が多く、この面でも若手を中心にファンを増やしたのは確実です。「action plan 2007」などについては大学のホームページ

(<http://www.tufs.ac.jp/index-j.html>) 上にも掲載されていますので一覧をお勧めします。

その後、2時間にわたって行われた懇親パーティー。今年が目玉は、「皆で歌おう」でした。歌声喫茶世代の幹事、橋野博さん(D昭36)たちが時たま出掛けている「ともしび歌声広場」のバンドの皆さんが応援出場、日本抒情歌やロシア民謡をみんなで気持ちよく歌いました。亀山学長もステージに上がり、若い人たちに混じって「カチューシャ」を歌いました。

かをり夫人と一緒に参加した長井豊彦さん(お二人ともS昭52)は「初めて参加したけど、やっぱり大学のつながりは良いもんだし、大事だと思えた。来て良かったよ」と感想を述べ、また、幹事の一人、安井紀子さん(S昭53)は散会后、「若い女性の参加者も楽しんでくださっていたのが、私にはなににより嬉しかったです」

と語っています。最後に安井さんと一緒にアイスクリームを食べた平成卒の女性達は「ひょっとして、おじ様ばかりで退屈かと思ったけれど、楽しかった。生演奏で歌があったのもよかった」と話していたそうです。門馬寛巳幹事長（Ic 昭 35）が挨拶の中で語ったように、関西支部は、会員相互の親睦と同時に、母校に対する物心両面の支援を標榜、「明るく、楽しく、若い同窓会」を目指しています。来年もとくに若手、中堅の方、誘い合わせてご出席ください。



歌う学長

## ソウル外語会 第4回開催報告

鴨下ひろみ (K 昭 62)

様々な祝日や祝祭など、爽やかなエネルギーに湧く5月のソウルにて、ソウル外語会定例会が第4回を迎えました！昨年の10月に再発足してから、徐々に会員数を増やしている我がソウル外語会。前会長の池田元博さん（R 昭 57）はじめ、初期からご参加されている皆様の再結成のご苦勞は、想像に難くありませんが、その甲斐あって、今回初参加の町田淳さん（R 平 1）、鶴間健介さん（K 平 15）、ジョン・ヘオクさん（J 平 18）、チョ・ハンナさん（J 平 17）の4名の方を新しく迎え、総勢なんと17名の会に発展しました。池田前会長によると初回は8名だったそうですから、第4回までのあいだに急成長です。若手会員の増加も手伝って、自然と賑やかで、和気あいあいとした雰囲気のある会になりました。

今回は、池田前会長が惜しくも帰国されたこ

とにより、高橋妙子さん（F 昭 52）が第4回よりソウル外語会会長に、鴨下ひろみが書記長に、そして宴会幹事（！）でおられた渡辺精一さん（D 昭 63）が、それではあんまりだということで、全会一致で事務局長に、それぞれ就任されました。

故郷のなまりなつかし、ではありませんが、近いとはいえ異国の地で、職場や年齢、国籍さえも超えてざっくばらんに話ができるということは、本当に幸せなことです。美味しい日本酒、お刺身、そしてお蕎麦・・・潔ささえ感じさせる本格的な日本食に、心は遥か日本、外語大での学生時代へ。西ヶ原の校舎の不便さ、名物教授の話、部室に暮らした学生生活、留年の恐怖など、今となってはかつて厄介だったことほど愛しく、楽しい話題になるのは不思議なものです。また、社会人として働くうちに、なぜだかソウル赴任を命じられた、との話題も何人かの方から出ましたが、それを飄々と受け入れ、却って楽しんでしまう鷹揚さこそ、外語大からもらった財産だと、改めて実感する機会となりました。



そば懷石店に集う

「文化は雰囲気だ」・・・先日日本に一時帰国した際に聞いた、日本を代表する商業デザイナーの言葉です。韓国でも「日式」という看板や広告をよく見かけますが、そこには日本のスタイルはあっても殆どの場合、日本の雰囲気は感じることはできません。文化はスタイルではなく、人が共有する雰囲気や感覚です。その意

味で、ソウル外語会には、メンバーが共有している雰囲気は確かにあります。楽しい会のお開きとともに、それぞれが三三五五持ち帰ったものは、そんな雰囲気＝文化というものなのかも知れません。

韓国在住の外語大出身でまだご参加されていない皆様、このような同窓の集いに、是非ご参加ください。渡辺事務局長の音頭のもと、美味しいお酒と会話を楽しむ機会を、今後も設けていく予定です。また、日本語学科を卒業された韓国人の同窓生の皆さんも相当数おられるとのこと。皆様のご連絡を心よりお待ちしております。

(連絡先：渡辺事務局長 swat0227@msn.com)

## 恩師、総領事をお迎えしてアモイ支部会開催！

秋保 哲 (C昭56)

去る5月21日にミレニアムハーバービューホテル・アモイにある中国料理「龍苑」において、第6回アモイ支部会が開催されました。当日は特別ゲストの方々をお迎えし、いつもはこじんまりしたアモイの支部会が総勢10名となり、いっぴくなく賑やかな会となりました。

当日は特別ゲストとして、支部会メンバーの外語時代の恩師である中国語方言学の中嶋幹起先生(現大東文化大学教授、外語名誉教授)、同じく文化人類学の西江雅之先生(現アジア・アフリカ図書館館長)、そして中国華南地区を管轄する在広州日本総領事館の吉田総領事、中島領事という錚々たる方々をお迎えしました。実は、吉田総領事のお姉様も外語卒、中島領事のご兄弟にも外語卒の方がいらっしゃるとのこと、あまりの偶然に大変びっくりしました。

食事をとりながら、吉田総領事から中国情勢や外務省に関するお話をお聞かせ頂き、それにまつわる話題で盛り上がりました。支部会メンバーの野平さんが過去に外務省の研修所で教えられていたという、意外な事実も発覚しました。

夕食後はホテルのカフェに場所を移し、中嶋先生、西江先生を囲んで、文学論、研究動向、

交友関係等幅広くいろいろなお話を聞かせて頂きました。支部会メンバー一同はお話の楽しさに、思わず夜が更けるのも忘れてしまい、お開きになったのは、23時をゆうに回った頃でした。

さて、今回このような形になった経緯をご説明したいと思います。今年の日中平和友好条約が締結されてから30周年、そして全日空(私が勤める会社)が日本からアモイに初めて定期便を就航させてから10周年に当たります。そこで、国家重点大学であり外語とも交流協定があるアモイ大学と全日空が連携し、同大学の学生に日本と中国の文化交流の歴史を包括的に理解してもらうことを目的に、共催で特別講座を開催しました。3月から5月にかけて、中国側からはアモイ大学の4名の先生方が、そして日本側からは外語の恩師である両先生を含む3名の先生方がご登壇されました。そこでは、日本の古典文学に見る中国文学の影響、明清期における日中交流史、近代日本知識人の中国観、現代日常語彙の日中比較、日本語の語彙変遷過程に見る日中間の語彙の相互影響、中国でも有名な村上春樹文学の分析、「国姓爺合戦」で有名な鄭成功の末裔たる長崎通詞が日中交流に果たした役割(中嶋先生)、文化人類学の立場から見た言葉を超えた国際交流のあり方(西江先生)等非常に多彩な内容が語られ、アモイ大学の学生達がこれから日中関係を考えていく上で、良い刺激になったのではないかと思います。



後列左から：秋保・中嶋先生・西江先生・吉田総領事・中島領事 前列左から：高橋さん・倉数さん・野平さん(夫)・野平さん(妻)・三浦さん

実は、この企画の背景に、支部会メンバーのサポートと恩師である先生方のご厚意があり、

外語OBであることのありがたみを再認識した次第です。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。また、吉田総領事には、アモイ支部会の翌日である22日に行われた今回の特別講座の閉幕式で、ご来賓としてのご挨拶を頂きました。そしてその模様は当日の夜のアモイテレビ（ローカルチャンネル）で早速紹介されております。微力ではありますが、今後も地元アモイでの日中交流の役に立てるような支部でありたいと思います。

## サンパウロ支部、移民百周年で会合

砂古友久 (Po 昭 26)

6月24日夜、珍しいご馳走がふんだんに出る麗都大酒樓で会合しました。移民船笠戸丸が出航したのが1908年、それ以前に、シベリア先周りでブラジルに渡った外語西語の通訳5人男、中でも平野植民地を作り今も慕われる平野運平先輩の胸像が市内のウンペイヒラノ広場にあるので写真を引き伸ばし持参、一同に偲んで貰いました。



5人に再会した金沢一郎先生が石川達三のように短期滞りもし（出来？）ないで同船で引き返した事、文部省にポルトガル語科設立の提案の功があった事、学生を洋食に連れて行き食事マナーを教えた良き時代などの紹介もありました。下記広山氏が元は東洋綿花との自己紹介で、東綿は昔、お茶の水橋側の当時豪華な大ビルに在ったと付け加える先輩、そのビルに薄荷輸出王辻三郎 (Po 昭 6) 先輩のメンベル社もあった

と付言する筆者。昭和初期卒の広川、畠山、和井大先輩以外にEça de Queirozを教材不足の学生達全員に送った谷崎美談の披露と次から次へ話題は尽きませんでした。

トヨタ通商の広山守 (S 昭 55)、ホンダの富重博之 (S 平 15) 両氏の初参加は新しい雰囲気作りに有り難い存在。今回も、主役は講演が本職の鈴木孝憲氏 (Po 昭 36) で、この6月に日本経済新聞社より上梓した『ブラジル巨大経済の真実』の初版が早々に売り切れたとご機嫌、ウイスキー持参の上、私と桜井章生氏 (Po 昭 36) が贈呈本を頂きました。筆者もかねての持論「食料とエネルギーの自給のブラジル」に鈴木氏当日夜の「水」の追加は将来BRICs トップになる感を強くしました。

上記で紹介の5人以外は、来年始め帰国予定のダイカラーの藤崎誠寿 (I 昭 40)、NSKの杉村秀一郎 (Po 昭 45)、何時も名簿をExcelで協力してくれるNYKの藤原正義 (Po 平 5) の各氏で、予定の9人が8人でした。



## 東京外語会中部支部からのお知らせとお願い ～愛知・岐阜・三重 ご在住の同窓生の皆様へ～

大原 侠 (M 昭 36)

中部支部（愛知、岐阜、三重）は、国内では最も古い歴史をもち、活発に活動してきておりましたが、2006年10月に懇親会を開催して以来、支部長不在、事務局弱体化のため、活動が中止状態になっております。

上記懇親会では、池端学長（当時）はじめ30余名の同窓生が参加され、盛大かつ楽しい催し

になりましたが、大変残念なことに、会の企画段階から中心的に活動された当時の支部長須賀慶治様（E昭 30）が開催直前に病床につかれ、懇親会直後ご逝去されるという事態に至りました。丁度まとまりのよいサイズの名古屋を中心としたこの会を機に、同窓生同志の交流も盛んで、今後の会継続を期待する声も多々聞かれます。そこで、新支部長（南山大学大学院教授黒田清彦氏=S昭 42）（交渉中）の下に事務局体制も一新して、伝統ある中部支部を守りたいと考え、2009年2月末頃の予定で中部支部総会・懇親会を開催したいと考えます。

当面は、現事務局の大原が中心にお手伝いいたしますが、徐々に新事務局に中心を移して行きたいと考えております。事務局に協力していただける方々の積極的参加を期待いたします。

下記にご連絡をお願いいたします。今年 11 月中旬までには、新事務局体制を確立したいと考えております。よろしくご願ひ申し上げます。連絡は下記いずれでも結構です。

〒484-0894 愛知県犬山市羽黒中深田 1-15  
大原 侠（いさむ）  
Eメール i.ohara@nifty.com  
TEL 090-7693-9511

## シドニー外語会

綱島 晋（大阪外語英語科 96 年卒）

6 月 6 日（金）に、冬本番間近のシドニーで、シドニー外語会（東京・大阪・神戸外大 3 校合同）が、ノースシドニーの中華レストランにて計 12 名の方々にご参加頂き、会合を開催しました。



今回は 5 月に開催されたシドニー大学対抗ゴルフ大会にて、我が外語会チームが 2 大会連続 2 位に入賞したこと、そして個人戦では町田博淳さん（東京外語）が見事優勝されたことを報告し、大いに盛り上がりました。一方、その町田さんをご帰任ということでこれが最後の外語会ということになり、お別れのご挨拶を賜りました。また、皆様よりそれぞれ密度の濃い近況報告をしていただき、あっという間に終了予定時間を迎えるに至りました。

前回まで幹事をなさっていたいただいた福田圭馬さん（東京外語）が転勤のため、残念ながらシドニーを去ることとなったため、今回より筆者が幹事を務めております。

将来、または既にシドニーに留学・赴任・永住などで滞在される方、是非ご一報下さい。次回は 11 月ごろの開催を予定しております。

（幹事）

## 上海東京外語会

杉原公基（R 昭 48）

上海の在留邦人数は増加の一途をたどっており、出張者を含めた邦人数は 8 万人ともいわれています。上海では東京外語 OB の方々が多数活躍中のことと思いますが、東京外語会の知名度が案外低いのか、邦人数の割には外語会メンバーが少ないように感じます。幸い、この度、誌面をお借りして上海東京外語会についてご紹介させていただく機会をいただきました。多数の新メンバーの参加を期待しています。

現在、上海東京外語会に登録しているメンバーは 60 名前後。当然ながら中国語科卒業の方が大半ですが、他にもイタリア語・ロシア語・インドネシア語・ポルトガル語・モンゴル語・日本語科等バラエティに富んでいます。

主な活動は、①会合（食事会）と②ゴルフコンペです。会合は、年に 3 回程度登録会員に呼びかけて上海市内のレストランに集い、懇親を深めています。ゴルフコンペについては、東京外語のコンペを年数回開催している他、大阪外語及び神戸外語 OB との対抗戦（三外大対抗ゴルフコンペ）も年に 3~4 回行って

おり、上海で活躍する東西外語会 OB 同士の交流の場となっています。因みに、前回 4 月に行われた三外大対抗ゴルフコンペでは、大阪外語及び神戸外語を押さえ、東京外語が見事勝利を収めました。

発展著しい上海には、日本食レストランや日本食材を売るスーパーなどもたくさんあり、また、在留邦人も多いことから、他の地域に比べれば日本とあまり変わらない生活を送ることも難しくないため、特に外語会などで集わなくても・・・と思われる方もいるかもしれません。

しかし、上海の東京外語 OB には、中国駐在歴が 8 年を超えるツワモノをはじめ、長い間中国ビジネスに関わっている方が多く、外語会は昔の苦労話から最新の中国情報まで大変興味深い話を聞くことのできる貴重な場でもあります。一匹狼が多いと言われる外語ですが、皆で集まったの食事会は和気藹々、冗談も飛び交い、いつも楽しい雰囲気。つくづく「東京外語出身でよかったな」と思わせてくれるものがあると自負しています。上海に駐在もしくは出張される場合には、是非上海東京外語会への登録をお忘れなく。

連絡先：木村（森口） tufssh@yahoo.co.jp

## バンコク東京外語会 最近の活動について

伊藤周一 (Th 昭 60)

現在、タイ国の在留邦人の数は 4 万人を超え、日本人会会員約 9 千名、商工会議所登録の会員企業約 1300 社、日本人学校の児童生徒総数約 2500 名と、世界でも指折りの、大きな日本人社会が形成されています。バンコク東京外語会は、タイが今のように変貌を遂げるずっと前、バンコクがまだ東洋のベニスと呼ばれた頃に発足し、以来、先輩諸氏のご尽力により受け継がれてきた歴史と伝統のある海外支部の一つであります。

現在の登録会員数は 40 名あまりですが、会では把握できていない隠れ同胞も、まだ相当数居られるものと考えられます。最近の傾向としては、当地で現地採用ベースで働く女子の卒業

生や留学中の現役学生が増加しています。

毎年、12 月 5 日、国王誕生日に開催する、東京・大阪外語ゴルフ対抗戦と合同ファミリーパーティで、もう何年も続いています。過去の対戦成績は残念ながら大阪に大きく負け越しています。さらに、年に 3~4 回ある第 5 日曜日に、両外語大合同のゴルフコンペ（こちらは親睦目的）を開催しています。他にも、先生がご来タイされた際などには都度、皆で集まる機会を設けております。多くの行事は大阪外語 OB 会と合同で開催しています。昨年より、先方は大阪大学外国語学部として統合再編されていますが、今後も、学生時代の宿敵？との友好関係は、継続していきます。

## 石井米雄先生を囲んでの懇親会開催

タイ語科の大先輩で、日本のタイ研究の第一人者の石井米雄先生（元外務省、京都大学東南アジア研究センター、上智大学教授、神田外語大学長、人間文化研究機構長、国立公文書館アジア歴史資料センター長などを歴任、チュラロンコン大学名誉文学博士）が、先日公用でタイを来訪され、6 月 25 日（水）、バンコクの中華の老舗「グレート上海」にて懇親会を開催しました。懇親会には東京・大阪両外語の卒業生 18 名が集まりました。石井先生は今年 79 歳とは思えないほど大変お元気で、アユタヤが数百年前は海の底だったこと、出家したお寺ではプミポン国王の後輩にあたることなど、在タイの卒業生ですら初めて知る事実や興味深いご経験、逸話などを、気さくにお話くださり、楽しい一時を過ごしました。



## 東京・大阪外語大ゴルフコンペ

6月29日(日)、標題のゴルフコンペをバンコク郊外のレガシーGCにて開催しました。今回は両校併せて9名と、ちょっと寂しい参加でした。このコンペは、いつも和気あいの雰囲気の中で少しだけ対抗心を持って(学校の名誉より個人の握りのほうが重要)戦っています。



バンコク東京外語会では、卒業生諸氏からの連絡をお待ちしています。会費等一切ございませんので、既に在タイの方、新たにタイに着任される方は、お気軽に以下の幹事までご連絡ください。

鬼頭宏彰(Th平1) hkito@kajima.co.th、上村万里子(Th平10) marikoarai\_1998@hotmail.com

## リオ外語会便り

加藤玲子(Po 昭39)

いささか旧聞に属するが、平成19年秋の叙勲で牧田弘行氏が日系社会に対する貢献を認められ、旭日単光章を受勲した。牧田氏は昭和9年(1934年)東京・板橋生まれ。昭和34年(1959年)に東京外国語大学ポルトガル語科を卒業後石川島重工のアルバイトをしたのがきっかけでブラジルに移住。石川島の現地会社イシカワジマ・ド・ブラジル(イシプラス)に採用され同社で通訳、翻訳などの業務に従事した。1980年初頭から、同社勤務の傍らリオデジャネイロ日系協会専務理事、会長を務め、後にリオデジャネイロ日伯文化体育連盟理事、副理事長に就

任、日本文化普及に努力するとともに日本語普及部長として大げさにいえば獅子奮迅の働きをした。

本職はイシプラスからヴァングアルダ旅行社社長と変わり、リタイアしてからも日系社会へのたゆまぬ献身を続けたため、日本政府から叙勲されることになった。蒼子夫人を1998年に亡くし、再婚相手の錦子夫人と趣味の音楽、絵画、旅行などで第三の人生を楽しんでいる。

## ワシントン支部近況

小野口荒太(C昭61)

ワシントン支部は、2名の大阪外大出身者を含め、2008年7月14日現在、18名(C3名、D1名、E4名、F1名、K1名、R3名、S5名)の会員がいます。13名が女性です。卒業年は、80-90年代を中心に1966年から2006年と40年にまたがっています。米国人と結婚し定住されている方、世銀グループ職員並びに配偶者、日本企業駐在員、新聞社特派員、留学生といった方々からなります。子育てで忙しい方、遠方にお住まいの方、出張で不在がちの方などが多いため、全員が一度に集まるのは難しいです。そこで普段からメールでの声かけに努め、半年に一度くらいのペースで、集まれるもの同士で会食をして、近況報告や情報交換をしています。以下、支部会員からの投稿も含めて、「支部から見た現地の状況」を記します。

ワシントンは大統領のお膝元、政治色が濃厚で日常から乖離した無機質なイメージを描きがちです。確かにロビイスト、弁護士、ジャーナリスト等がひしめき、一般企業は極少数、「希少な政治空間」です。一方で、意外なプロフェッショナルも活躍しています。MLBヘッド・コーチ、閣僚級会議専門通訳、国立衛生研究所研究員、ソーシャルワーカー等です。特定分野のプロを目指して鎬を削るのは、当地ならではの特殊な環境が醸し出す傾向でしょう。又、日本人以上に日本通かつ親日派の米国人・外国人が、国際的な視点をもって日本を鋭く観察、分析し

ています。当地で育つ日本人青年層の存在も、次世代を担う国際的な人材として見逃せません。

(井澤久美子、C 昭 57 Senior Consultant, Royal Roots Global, Inc.)

ワシントンという土地柄でマスコミ関係や企業でも製造や営業といった所謂、実業に携わっている人より調査や渉外業務をしている人が多く見受けられます。調査というのは、政治や経済から通商、環境・エネルギー等の問題が対象です。渉外というのは企業にとって有利になるように業界活動を通じて政府機関に提言や要請を行う仕事です。最近では自動車や原子力関係等環境問題が目立ちますが FTA(自由貿易協定)に対する政策等の通商問題もあります。民主党の大統領候補のオバマ氏は保護貿易主義的な主張をしていますが共和党候補のマケイン氏は自由貿易を強く主張しています。来年成立する新政権の政策の動向等は注目される課題の1つです。(野西正一、大阪 S 科卒、Senior Representative, Matsushita Electric Industrial Co., Ltd)

米国の首都には、何と優良公立学校がありません。このため、就学児童をもつ中流以上の家庭は、近郊のメリーランド州かバージニア州の良い公立学校が集中している地区に住むこととなります。当然そのような地区は人気が高く、住宅費も高いです。親子4人で暮らせるような家は、買うと50~70万ドル以上、賃貸でも月額2500~3000ドル以上します。サブプライム危機後も、このような地区の物件はあまり値下がりしていません。渡米前は、米国の学校はリラックスしているものと勘違いしておりましたが、米国は日本以上に学歴社会です。優良校では、大変勉強が厳しく、スポーツでも、入部選抜で選ばれた者しか入れません。一種目につき一年間のうち3ヶ月しか部活がないので、どれだけ普段スポーツクリニック等で鍛えて、入部選抜に備えるかで勝負が決まります。(小野口)

ワシントン支部では、新たな会員の方が来られることを楽しみにしています。当地へ引越しの際は、気軽にご連絡下さい。

(ワシントン支部幹事 Operations Officer, International Finance Corporation)



## ムンバイ支部発足

佐藤寿一 (M 昭 55)

この度ムンバイ支部を6名で発足させました。メンバーは萩生田浩次氏 (H 昭 44 在ムンバイ日本国総領事)、塩田真人氏 (Po 昭 53 ORIX)、城芳久氏 (R 昭 60 三菱商事)、河野将史氏 (U 平 9 JETRO)、石川博一氏 (H 平 15 興和) と佐藤寿一 (ANA) です。7月10日に4名が集まり学生時代のこと、近況、インド及び周辺地域の政治、経済、文化に関する話に花が咲きました。



左から、佐藤、萩生田、塩田、河野

今後も定期的に集まり、近況報告、情報交換を通じた交流を深めていきたいと考えています。



経済成長著しいインドにあって、とりわけ金融、経済の中心地として注目されるムンバイですが、総領事館に登録されている日本人は、駐在員及びその家族を合わせても250名強です。今後一層日本人駐在員、とりわけ外語卒業生が増えることを期待しています。この外語会報を読まれたムンバイ在住卒業生の方、ぜひご一報下さい。

(幹事：佐藤 jsato@ana.co.jp)

## NY支部再興へ作戦始動

長谷川潔 (Ic昭46)

NY支部は08年の初会合を7月22日夜、マンハッタンにある日本料理店で開いた。初めての参加者4人を含む7人が集まり、ワイワイがやがや。少人数ながら、年齢差を越えて楽しい会話が弾んだ。気づいたら3時間半も経っていた。「次回は年末か新年にまた開きましょう」「楽しみにしています」と言い交して散会した。

実はNY支部はこの会合の前に大ピンチに陥っていた。登録されている会員は12人しかないというのに、この会合を開くために連絡を取ったら、うち3人が転勤あるいは帰国していたことが判明、総勢9人になっていた。

NY総領事館に届け出ているNY大都市圏(隣接州を含む)の長期滞在邦人数はざっと8万人。永住者を含めれば10万人近い。規模が小さな大学とはいえ、卒業生は外国滞在外者が多いはず。どんなに少なく見ても50人程度はいると思われる。たぶん、東京外語会NY支部の存在が知られていないのだろう。同窓会が活動していることを知ってもらう必要がある。

こう考えて、地元の無料紙「週刊NY生活」に3週間にわたって3回、会合の告知と卒業生の会員登録の呼びかけを兼ねた広告を出すことにした。同紙とは仕事上の関係があるため、広告料金を割安にしてくれたうえ、WEBサイトにも3週間ずーっと同じ広告を掲載してくれた。この広告を見て3人の卒業生から連絡が入り、2人が出席できることになった。またNY赴任者が生活の手引きとして使う「NY生活便利帳」の

大学同窓会リストを見て、知り合いの同期生を誘ったうえで参加を申し込んできてくれた。さらに2人増えた。東京外語会本部のWEBサイトを見て、登録を申し込んできてくれた人も1人いて、登録会員は15人となった。

広告を見たライバルの日刊無料紙からは「当紙でも広告を」と割安な料金を提示して来た。次の会合ではこちらを併せて使うことも考えたい。財源は前支部長から引き継いだ繰越金。潤沢ではないが、会員数増加に役立てることを優先して使おうと考えている。当面の目標は20人。さらには30人をめざせればと、というところである。



「君たちは西が原組かい?」「西が原には木造校舎があったんだよ」「もう新しい大学には行った?」——。今回の会食で初めて会った人も、同じ大学を出たというだけで、旧知のように話し合えるのが面白い。話しているうちに、初参加の女性のご主人も卒業生ということが分かり、「次回はお子さんと子ども家族全員で来て下さい」。労せずして会員がもう1人増え、合計16人になった。

「NY生活便利帳」の人からは「同窓会の連絡先リストに写真も付けたいので、送って下さい」と言われていたので、今回の会合の写真をさっそうと送った。写真で和やかな雰囲気がわかれば、会員数がさらに増えるのではと期待している。今回の会合では、空席になっていた幹事を岡本晃志(Po昭52)、小高航(R平9)の両氏に快く引き受けて頂き、支部再興に向けた体制も整った。さらに多くの同窓生と交歓できるのが楽しみである。(支部長)